**第４３回登別市市民自治推進委員会　育み部会議事録**

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年２月１７日（月）１７時３０分～ |
| 開催場所 | 登別市役所本庁舎　２階　第１委員会室 |
| 出席者 | （部会長）　神谷博達  （部会員）　安宅錦也、合田美津子、仲川弘誓  （庁内委員）重山大介  （事務局）　大越智輝、安倍一葉 |
| 欠席者 | （副部会長）川村正勝  （部会員）　佐藤文子、磯田大治  （庁内委員）近藤正嗣 |
| 議題 | 学校図書館活動の活性化に関わる今後の取り組みについて |
| 配布資料 | 第４２回育み部会議事録  第４３回育み部会参考資料（部会長作成） |

１　会議の要点

　　前回の部会で部会長より配布された学校図書館参観の記録をもとに、現状や課題を把握し、今後の取り組みについて協議した。

（１）学校図書館活動の参観結果について

・多くの学校で共通して挙げられた課題は、保護者や地域人材の多忙化により、図書ボランティアの人数が減っていること。

・現在、学校司書は小学校に配置されているが、２校をかけ持ちしている方もいる。１校に１名で、中学校にも配置することが理想。

（２）今後の取り組みについて

・わからないことがあってもインターネットで検索すると何でも出てくる時代で、教育の現場でも紙の教科書を廃止し、児童生徒にタブレットを配布しようという動きが見られる中、無理に紙媒体の本を押しつけるのではなく、このようなときは紙媒体の方がいいよというようなデータがあれば示し、有効的に使ってもらうといいのではないか。

・幼児期に本に触れることがとても大切である。市では「ライブラリースタート」といって３歳児に本を配布する事業を行っている。

・アーニス１階のテナント空きスペースで本が読めるようになっているが、子ども

　が本と出会い、親にも読み聞かせに関心をもってもらうため、そういった場所で

例えば月１回でも市立図書館による本の読み聞かせをするのはどうか。その間、保護者は買い物をするといった一時的・簡易的な託児のようなことができればよい。まちづくりの核になるような取り組みとして、中央町に人が集まるきっかけとして、アーニスの活性化にもつながる。

・保護者から室蘭市生涯学習センター「きらん」のようなものが登別市にもあればいいという声を聞く。「きらん」は保護者同士の交流の場にもなっている。登別市もなるべくお金を掛けずにきっかけになる場所があればいいと思う。

・大都市と同じことはできないが、商業施設に託児所を設けているところや、全国の他市町村で子どもの遊ぶ場所と本を読む場所を組み合わせたような取り組みで成功している例がないか、庁内委員や事務局においても調べる。各部会員においても次回までに具体的なイメージを考えてくる。

・次回の部会では調べた情報を基にしながら実現可能性を検討する。

２　次回について

　日時：令和２年３月３０日（月）１７：３０～

　協議内容：学校図書館活動の活性化に関わる今後の取り組みについて